

# NPB 新型コロナウイルス対応総括

～新型コロナウイルス影響下における3シーズンの取り組み～  
(2020年～2022年)



一般社団法人日本野球機構



# 目次

## はじめに

- ・新型コロナウイルス対策連絡会議専門家チーム
- ・NPBコロナ対応の主な動き（日録）
- ・陽性者数／定期検査数／中止・延期試合数（3年間総括）

## 1. 感染症対策

1-1 定期検査について	9
--------------	---

## 2. 発生事例件数

2-1 シーズン発生事例	10
2-2 過去3年推移	11
2-3 症状別件数	12

## 3. 公式戦への影響

3-1 試合日程の変更	13
3-2 シーズン特例事項	14

## 4. 公式戦入場者数

4-1 12球団合計	16
------------	----

## 5. 応援団活動について

5-1 主な動き（日録）	17
5-2 応援スタイルについて	18

# はじめに

世界保健機構（WHO）が2020年3月11日(火)スイスのジュネーブ本部で開いた記者会見で「新型コロナウイルスはパンデミックとみなすことができる」と、世界的な大流行を宣言してから3シーズンが経過しました。NPBは、2020年3月3日にJリーグと共同で「新型コロナウイルス対策連絡会議」を設立し、感染症の専門家チーム・科学アドバイザーの先生方と感染防止の取組みを開始、3月20日からの開幕の延期を決定しました。

2020年は、1チーム143試合制から120試合に変更したことで全138試合が中止となり、約3か月遅れて6月19日にシーズンを開幕しました。2021年には15試合、2022年は19試合が新型コロナウイルス感染の影響で試合が延期となりましたが、全試合を開催することができました。その間、継続して開催してきた新型コロナウイルス対策連絡会議は延べ68回を重ね、専門家チーム・科学アドバイザーの先生方には多くのご指導を賜り厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス対策連絡会議には、アマチュア野球連盟をはじめとした野球関係者、Jリーグを始めとするサッカー関係者、スポーツ庁、他の競技スポーツ団体の皆様、遊園地関係者、音楽イベント関係者など様々な方々がオブザーバーとしてご出席いただき、情報共有をして頂きましたことに心より感謝申し上げます。

本会議は11月末をもって終了となりますが、これまでの知見を活かし、引き続き専門家チーム・科学アドバイザーの先生方のご指導を賜り、行政府との連携を諮りながら、野球文化を推進して参りたいと存じます。

2022年11月28日 一般社団法人日本野球機構

# 新型コロナウイルス対策連絡会議専門家チーム

【敬称省略】

専門家チーム	
賀来 満夫	東北医科薬科大学医学部感染症学教室 特任教授 東北大学名誉教授・客員教授、東京都参与
三嶋 廣繁	愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座 主任教授 他
舘田 一博	東邦大学医学部 医学科 教授
高橋 聡	札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座 教授
遠藤 史郎	東北医科薬科大学病院 感染制御部 部長
國島 広之	聖マリアンナ医科大学感染症学講座 主任教授
掛屋 弘	大阪公立大学大学院医学研究科臨床医科学専攻 教授 医学部医学科 教授
大毛 宏喜	広島大学病院感染症科 教授
泉川 公一	長崎大学 副学長
科学アドバイザー	
井元 清哉	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターセンター長 教授
村上 道夫	大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)特任教授
加來 浩器	防衛医科大学校防衛医学研究センター 教授

# NPBコロナ対応の主な動き（2020年）

	日付	主な動き
緊急事態宣言 (1回目) 4月7日～ 5月25日	3月3日	・NPBとJリーグ合同で設置した第1回「新型コロナウイルス対策連絡会議」開催。
	3月9日	・第2回連絡会議を受けた12球団代表者会議で3月20日の開幕延期を決定。
	3月19日	・第1回12球団開幕準備会議開催。アルコール、サーモメーター等の物資調達状況を確認。
	4月17日	・セ・パ交流戦中止を発表。
	4月23日	・12球団代表者会議で無観客での開催を決定。
	5月11日	・オールスターゲーム中止を発表。
	5月25日	・12球団代表者会議で開幕日を6月19日に決定。
	6月17日	・臨時実行委員会にて「2020特例」などの特例事項を決定。 ・「NPB新型コロナウイルス感染予防ガイドライン（無観客）」発布。
	6月19日	・無観客で開幕。（各球団120試合制）
	6月24日	・応援団担当者会議を開催。7月10日からの上限5000人有客での応援スタイルを検討
	7月10日	・有観客試合に移行。上限5000人。
	9月12日	・臨時実行委員会にて上限5000人制限を9月19日から収容人員の50%へ緩和することを決定。
	9月21日	・Jリーグと共同でファン・サポーターの皆様へ向けた共同メッセージ発信。 ・「新型コロナウイルス禍での特別応援許可申請」発布。
	10月22日	・春季キャンプ確認会議を開催。検査体制の構築と人流コントロールを検討。
11月12日	・第17回みやぎフェニックス・リーグ新型コロナウイルス感染予防ガイドライン作成。	
11月21日	・日本シリーズ開催。（11月21日～25日）	

# NPBコロナ対応の主な動き（2021年）

	日付	主な動き
緊急事態宣言 (2回目) 1月8日～ 3月21日	1月20日	・「春季キャンプ新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」発布。
	2月10日	・NPB齊藤コミッショナーとJリーグ村井チェアマンが収容率に基づいた基準設定、夜間時刻制限の緩和、外国人選手等入国後の制限緩和を求める要望書を文部科学大臣へ提出。
	2月19日	・ファンに向け観戦ルール遵守の徹底「球場での試合観戦におけるお願い」を発布。
	3月8日	・「NPB新型コロナウイルス感染予防ガイドライン（有観客）」発布。
	3月19日	・「外国人選手入国後の隔離管理ガイドライン」を作成。
	3月26日	・有観客で開幕。（各球団143試合制、9回打ち切り、声出し応援なし） ※地域によって収容50%、1万人上限
	4月24日	・緊急事態宣言を受けて臨時実行委員会を開催。6試合延期を決定。 (4月29日：東京ヤクルトー巨人、オリックスー東北楽天、その他5月11日までの東京ヤクルト、巨人主催の4試合)
緊急事態宣言 (3回目) 4月25日～ 6月20日	5月2日	・臨時実行委員会を開催。10名の陽性者が出た北海道日本ハム球団の5月2日～5日までの4試合延期を決定。
	5月21日	・臨時実行委員会を開催。10名の陽性者が出た広島カープ球団の5月21日～23日までの3試合延期を決定。
	5月25日	・臨時実行委員会を開催。広島カープ球団の5月25日～26日までの交流戦2試合延期を決定。
緊急事態宣言 (4回目) 7月12日～ 9月30日	5月31日	・「NPB新型コロナウイルス検査体制について」を作成。
	6月21日	・球団向けワクチン職域接種会場確保。
	7月5日	・実行委員会にて、ポストシーズン1週間繰り下げを決定。
	10月14日	・「ワクチン・検査パッケージ」を活用した実証調査。（10月14日～11月23日） ※リーグ公式戦、クライマックスシリーズ、日本シリーズにて計17試合で実施。
	11月20日	・日本シリーズ開催。（11月20日～27日）

# NPBコロナ対応の主な動き（2022年）

日付	主な動き
2月16日	・侍ジャパン強化試合（対台湾戦）の中止を発表。
3月初旬	・12球団から各自治体に「安全計画書」を提出。
3月25日	・有観客で開幕。（各球団143試合制、声出し応援なし）
4月2日	・臨時実行委員会を開催、11名の陽性者が出た東北楽天球団の4月2日、3日の2試合延期を決定。 ※緊急スクリーニング検査を3日以上連続実施し終息を確認。
4月7日	・11名の陽性者が出た横浜DeNA球団の4月7日の試合延期を主催球団、NPBと協議のうえ決定。
4月8日	・臨時実行委員会を開催。横浜DeNA球団の4月8日～10日までの3試合延期
4月11日	・臨時実行委員会を開催。12名の陽性者が出たオリックス球団の4月12日～14日までの3試合延期を決定。
6月6日	・12球団代表者会議にて定期スクリーニング検査頻度を緩和することを決定。 ・マスクの着用について検討。
6月28、29日	・臨時実行委員会を開催。18名の陽性者が出た福岡ソフトバンク球団の6月29日、7月1日の2試合延期を決定。
7月9日	・多数の陽性者が出た東京ヤクルト球団の7月9日、10日の2試合延期をNPBと協議のうえ決定。
7月21、26、28日	・臨時実行委員会を開催。読売球団の7月22日～24日、29日～31日の6試合延期を決定。 ※29日は主催球団、NPBと協議のうえ決定。
8月22日	・12球団代表者会議にて無症状陽性者のバブル方式による早期練習復帰プログラム決定。 ・緊急スクリーニング検査を3日以上連続から2日以上に緩和。
10月22日	・日本シリーズ開催。（10月22日～30日、第7戦で終了。全試合で入場完売。）
10月31日	・12球団代表者会議にて2023年シーズンは定期スクリーニング検査は実施せず、発症ベースでの検査実施を決定。
11月28日	・第68回の新型コロナウイルス対策連絡会議をもって対策連絡会議終了。

➤ 「新型コロナウイルス対策連絡会議」は2020年3月3日の第1回目から2回/月のペースで開催。（計68回）

➤ 各種ガイドライン、検査体制は状況に応じ随時更新。

# 陽性者数／定期検査数/中止・延期試合数（3年間総括）

【期間】 2020年1月1日～2022年10月31日

【対象】 選手・監督・コーチ・球団スタッフ、審判員、NPB職員

【陽性者・定期検査数・中止、延期試合数】

■陽性者数 : 1,132名

(2020年：39名、2021年：61名、2022年：1,032名)

■定期検査 : 132,735件

(2020年：11,677件、2021年：36,123件、2022年：84,935名)

■中止試合数 : 138試合 ※143試合制、全858試合

(2020年シーズンのみ120試合に変更、全720試合)

■延期試合数 : 34試合

(2021年シーズン15試合、2022年シーズン19試合)



# 1. 感染症対策

## 1-1 定期検査について

### 【検査対象】

1 2 球団の選手・監督・コーチ・チーム帯同人員及び球団で選定するスタッフ関係者。

### 【検査種類】

リアルタイムPCR検査及び抗原定量検査等、管轄保健所・自治体において確定診断に繋がることが確認出来ている検査を原則とする。

### 【検査頻度】

月1回を基本として実施。（感染状況に応じて頻度を変更）

※以下の基準に合わせて実施。

- ・ 緊急事態宣言発出中地域：週1回
- ・ まん延防止等重点措置発出中地域：2週に1回
- ・ 上記以外の地域：月1回

定期PCR検査実施の間に体調不良者の確認などでは抗原定性検査の併用も可能。なお、陽性確定後の緊急検査や体調不良者発生時には感度の高いPCR検査、抗原定量検査を実施し、早期に確定検査を実施することで感染拡大を抑える。

## 2. 発生事例件数

### 2-1 シーズン発生事例件数

2022年10月31日現在

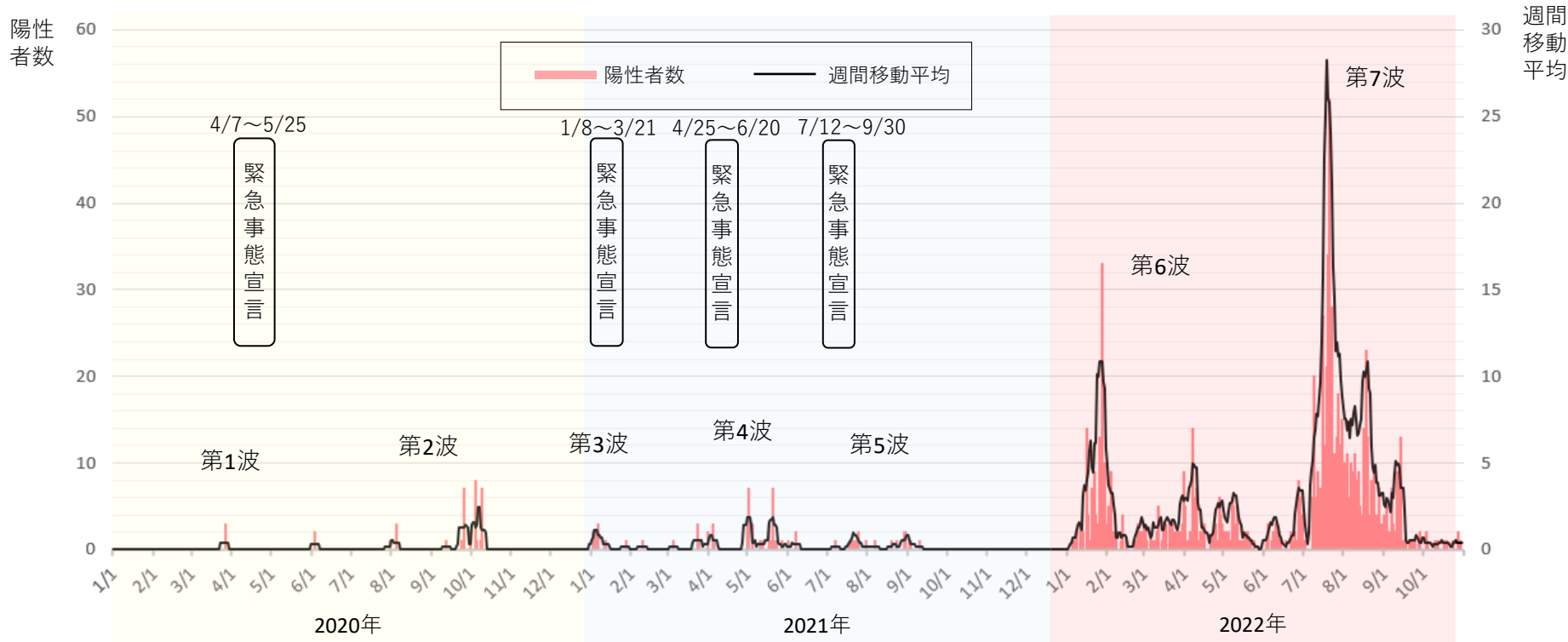
		2020年	2021年	2022年
チーム関係者	陽性事例	12件 39名 うち有症状24名、 無症状15名	29件 61名 うち有症状35名、 無症状26名	389件 1,032名 うち有症状615名、 無症状417名
	陰性（感染疑い）事例	42件	32件	44件
濃厚接触者・家族に関する事例		18件 うち球団関係者が 濃厚接触者認定： 6件	29件 うち球団関係者が 濃厚接触者認定： 13件	84件 うち球団関係者が 濃厚接触者認定： 9件
チームと接触のないスタッフ等に関する事例		28件	20件	112件
観客に関する事例		6件 いずれも、球場内 での感染及び濃厚 接触判定は無し	13件 いずれも、球場内 での感染及び濃厚 接触判定は無し	26件 いずれも、球場内 での感染及び濃厚 接触判定は無し

※ 上記に加えて、新規入国外国人の隔離期間中陽性 2021年：1名、2022年：4名

## 2. 発生事例件数

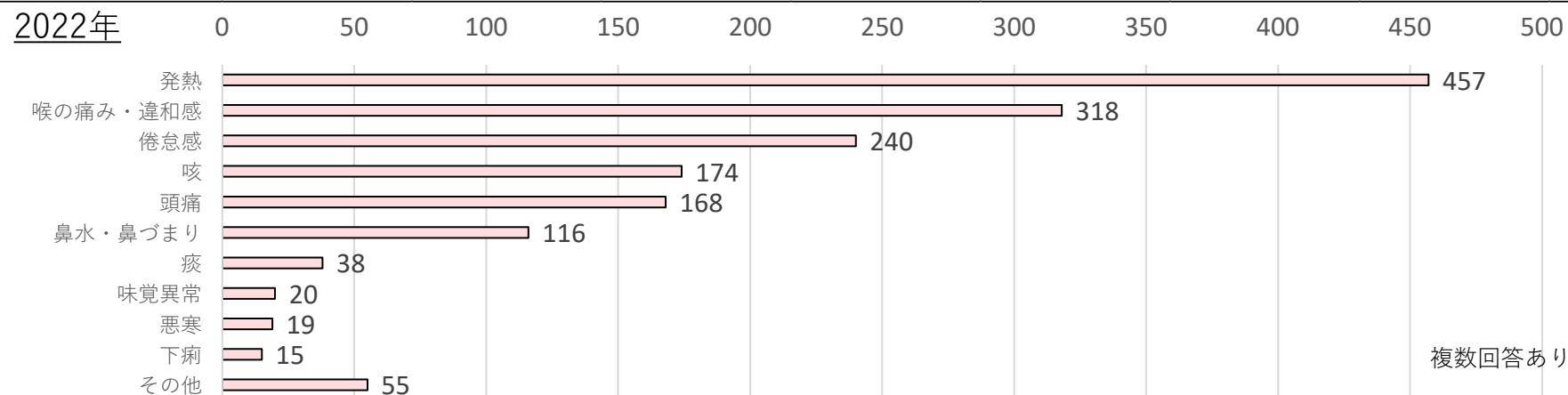
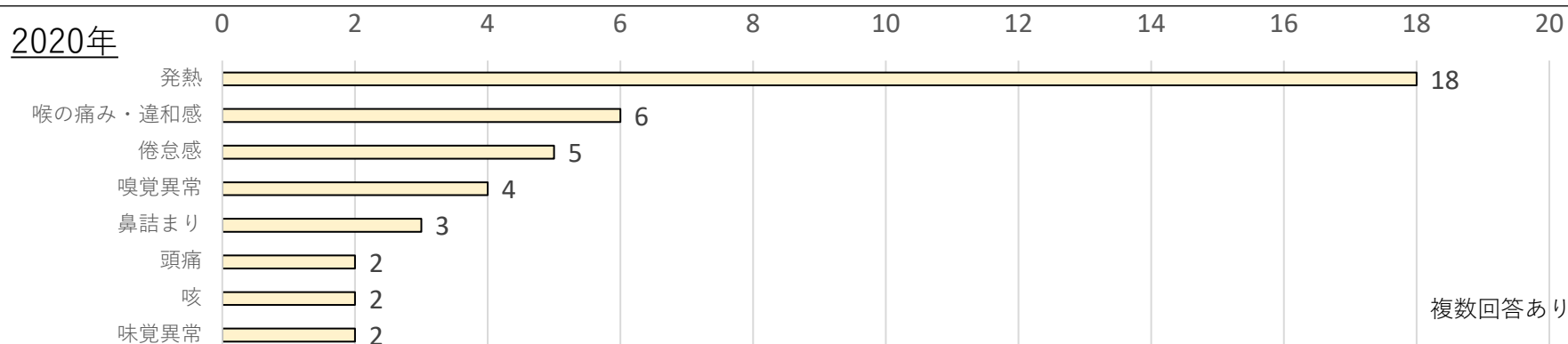
### 2-2 過去3年推移

対象：選手・監督・コーチ・スタッフ 2022年10月31日現在



	2020年	2021年	2022年
陽性者数	39名	61名	1032名
有症状率	62%	57%	59%

## 2. 発生事例件数 (2-3 症状別件数)



# 3. 公式戦への影響

## 3-1 試合日程の変更

※新型コロナウイルスに関連した延期試合数

### 2021年セントラル・リーグ

試合日	理由	ホーム	ビジター	球場
4月29日	緊急事態宣言	ヤクルト	巨人	神宮
5月2日	緊急事態宣言	巨人	中日	東京ドーム
5月3日	緊急事態宣言	ヤクルト	阪神	神宮
5月8日	緊急事態宣言	巨人	ヤクルト	東京ドーム
5月11日	緊急事態宣言	ヤクルト	広島	神宮
5月21日	新型コロナウイルス	広島	阪神	マツダスタジアム
5月22日	新型コロナウイルス	広島	阪神	マツダスタジアム
5月23日	新型コロナウイルス	広島	阪神	マツダスタジアム

### 2022年セントラル・リーグ

試合日	理由	ホーム	ビジター	球場
4月7日	新型コロナウイルス	阪神	横浜DeNA	甲子園
4月8日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	中日	横浜
4月9日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	中日	横浜
4月10日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	中日	横浜
7月9日	新型コロナウイルス	ヤクルト	阪神	神宮
7月10日	新型コロナウイルス	ヤクルト	阪神	神宮
7月22日	新型コロナウイルス	中日	読売	バンテリンドーム
7月23日	新型コロナウイルス	中日	読売	バンテリンドーム
7月24日	新型コロナウイルス	中日	読売	バンテリンドーム
7月29日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	読売	横浜
7月30日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	読売	横浜
7月31日	新型コロナウイルス	横浜DeNA	読売	横浜

### 2021年パシフィック・リーグ

試合日	理由	ホーム	ビジター	球場
4月29日	緊急事態宣言	オリックス	東北楽天	京セラドーム
5月2日	新型コロナウイルス	日本ハム	埼玉西武	札幌ドーム
5月3日	新型コロナウイルス	千葉ロッテ	日本ハム	ZOZOマリン
5月4日	新型コロナウイルス	千葉ロッテ	日本ハム	ZOZOマリン
5月5日	新型コロナウイルス	千葉ロッテ	日本ハム	ZOZOマリン

### 2022年パシフィック・リーグ

試合日	理由	ホーム	ビジター	球場
4月2日	新型コロナウイルス	東北楽天	福岡ソフトバンク	楽天生命パーク
4月3日	新型コロナウイルス	東北楽天	福岡ソフトバンク	楽天生命パーク
4月12日	新型コロナウイルス	東北楽天	オリックス	楽天生命パーク
4月13日	新型コロナウイルス	東北楽天	オリックス	楽天生命パーク
4月14日	新型コロナウイルス	東北楽天	オリックス	楽天生命パーク
6月29日	新型コロナウイルス	福岡ソフトバンク	千葉ロッテ	PayPayドーム
7月1日	新型コロナウイルス	埼玉西武	福岡ソフトバンク	ベルーナドーム

### 2021年交流戦

試合日	理由	ホーム	ビジター	球場
5月25日	新型コロナウイルス	広島	埼玉西武	マツダスタジアム
5月26日	新型コロナウイルス	広島	埼玉西武	マツダスタジアム

	セ	パ	交流戦	計
2022年	12	7	0	19
2021年	8	5	2	15

※2020年は1球団あたり120試合となったが、コロナウイルスの影響による延期試合はゼロ。

### 3. 公式戦への影響

#### 3-2 コロナ禍におけるシーズン特例事項

アグリーメント項目	2020年 特例事項	2021年 特例事項	2022年 特例事項
公式戦試合数	120試合制 CSセ：開催なし CSパ：ファイナルのみ	143試合制 CS開催 ※ポストシーズン1週間後ろ倒し	143試合制 CS開催
連盟管理節	120試合・全試合	143試合・全試合	143試合・全試合
試合の制限	延長10回引き分け	9回打ち切り	延長12回引き分け
出場登録選手数	29名⇒31名 (外国人選手登録4名⇒5名)		
ベンチ入り人数	25名⇒26名		
特例 2020～2022 (次ページ掲載)	新型コロナウイルス感染の疑い（本人及び家族ほか）や発熱をはじめとする体調不良、ワクチン接種による体調不良の症状が発生した場合に適用。当該選手は10日間を経ずに再登録が可能。		
審判員割当と人数	5名の審判員から構成される固定クルーにて試合出場の割当。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月19日に開幕。 (交流戦、オールスターゲーム中止)</li> <li>・セは移動軽減のため、開幕時は首都圏の球場で試合を行い、その後は西日本の球場に移る「集中開催」方式を7月中旬まで実施。パも2カード目以降7月19日までは、同一カードでの6連戦を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1都3県は政府の飲食店への時短要請を踏まえ、自治体と調整のうえ試合開始時間を15分から30分前倒し。</li> <li>・東京五輪、コロナ影響、雨天中止により試合消化が困難になり、ポストシーズンを後ろ倒し。日本シリーズは11月20日から開催。</li> </ul>	陽性者数は増加したものの、従来通りの日程消化。

# 3. 公式戦への影響

## 3-2 コロナ禍におけるシーズン特例事項

(アグリーメント抜粋)

2022年3月18日

「感染拡大防止特例 2022」（通称：特例 2022）  
（新型コロナウイルス感染予防対策・出場選手登録抹消特例ルール）  
2020年6月17日制定、2021年1月19日改定、2022年3月7日改定（実行委員会）

新型コロナウイルス感染の疑い（本人および家族ほか）、発熱をはじめとする体調不良、ワクチン接種による体調不良の症状が発生した場合、特例 2022 を適用することが出来る。

≪規定（選手異動の対象）≫

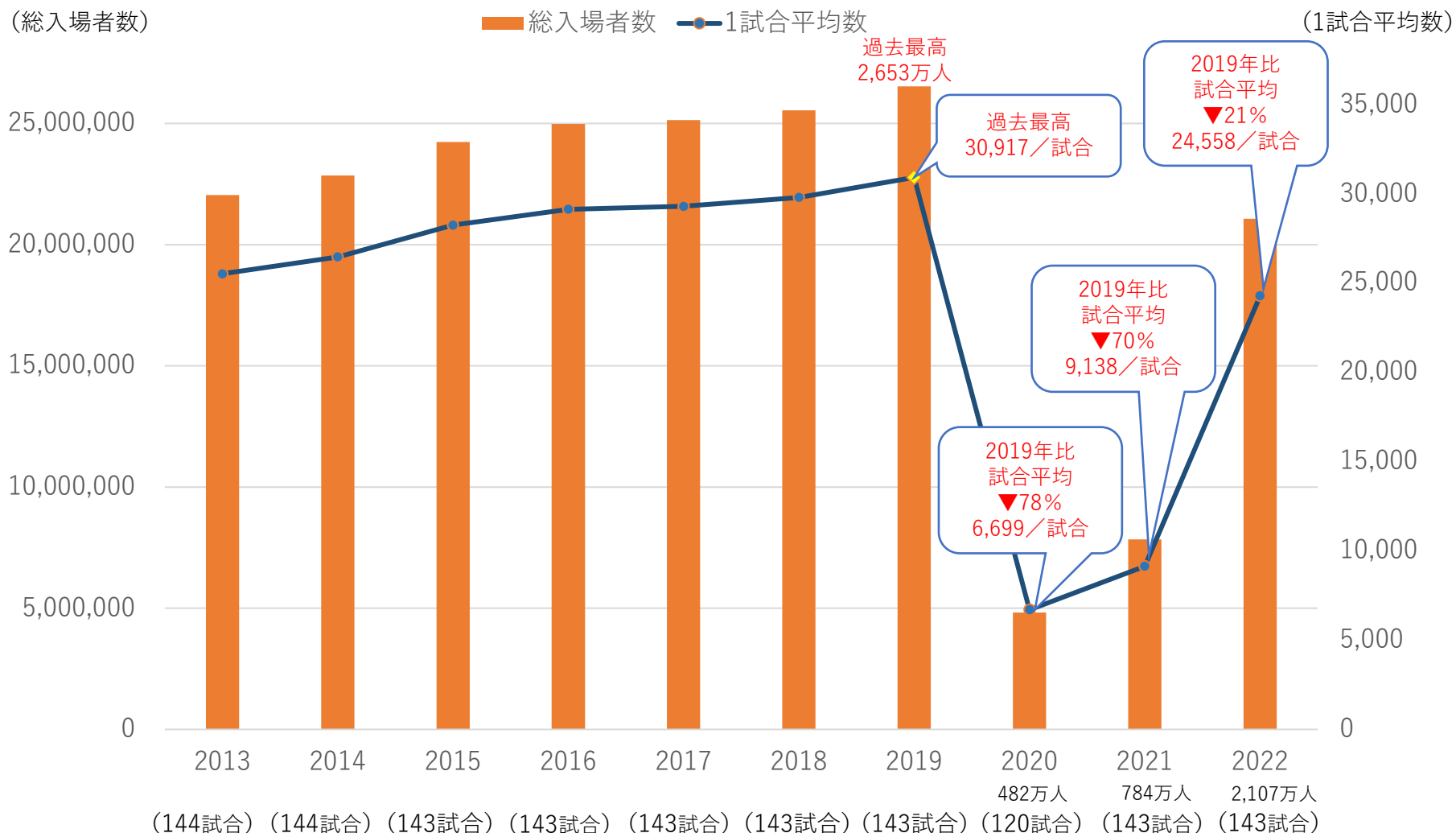
- ・ 特例 2022 に選手数の制限を設けない。特例の趣旨に則り、球団が判断した選手が対象となる。
- ・ 同一選手の特例適用回数制限を設けない。
- ・ 当該選手は、10 日間を経ずに再登録を可能とする。
- ・ 再登録によって、抹消される選手は代替選手とは限らない。
- ・ 代替選手が抹消された場合、10 日間を経ずに再登録を可能とする。
- ・ 代替選手を再登録する場合、代替選手枠にいる選手だけでなく、代替選手以外の選手とも入れ替え可能とする。  
なお、代替選手以外の選手が登録抹消された場合は、再登録には 10 日間が必要。
- ・ 通常の選手異動で抹消されていた選手が 10 日間を経ていなくても、代替選手として登録することができる。

≪補足説明≫

- ・ 不正な申告と認められた場合、チーム・選手に制裁を科す。
- ・ 当該選手の F A 日数の取り扱いについては、登録抹消日を起算日とし、体調が回復し 2 軍練習に合流する前日までの期間（日数）を加算する（1 軍練習合流も含む）。
- ・ 同様に、追加参稼報酬の計算においても、登録抹消日を起算日とし、体調が回復し 2 軍練習に合流する前日までの期間（日数）を加算する（1 軍練習合流も含む）。
- ・ 前年度 F A 日数 1 シーズン取得選手が、開幕日以前に新型コロナウイルス感染（陽性、濃厚接触者含む）の影響で入院または自宅待機の扱いとなり、開幕ロースターに登録されずにその後、出場選手登録された場合、2 軍練習に合流する前日までの期間（日数）を加算する（追加参稼報酬も同じ）。
- ・ 開幕 2 日前のロースター提出後、登録されていた選手が新型コロナウイルス感染（陽性、濃厚接触者含む）の影響で抹消せざるを得ない場合、選手異動を可能とする。

# 4. 公式戦入場者数

## 4-1 12球団合計（過去10年推移）





## 5. 応援団活動について

### 5-1 応援活動の主な動き

日 付		主な動き
2020年	5月25日	・ 12球団代表者会議で開幕日を6月19日に決定。
	6月24日	・ 応援団担当者会議を開催。7月10日からの上限5000人有客での応援スタイルを検討 ⇒7月15日～31日の期間を観客の反応を見ながら、新規応援スタイルのテスト運用期間とすることを決定。
	7月15日	・ 応援団担当者会議を開催。7月10日から前日までの応援活動経過報告共有。
	9月18日	・ 応援団担当者会議を開催。50%への増員後の応援活動を検討。 ⇒応援活動は球場、球団毎の判断で実施することと、新しい応援スタイルについて、NPB12球団としての共通理念を発表することを決定。
	9月21日	・ 「新型コロナウイルス禍での特別応援許可申請」発布。
2021年	2月19日	・ ファンに向け観戦ルール遵守の徹底「球場での試合観戦におけるお願い」を発布。
	3月15日	・ 応援団担当者会議を開催。関東5球団は緊急事態宣言解除になっても応援活動自粛。他地域7球団は球団判断とすることを決定。（フラッグ応援を可とする） ※以降、イベント制限に応じて都度球団判断。
2022年	3月25日	・ 開幕からこれまで同様に声出し、鳴り物禁止で活動。 ※専門家先生方のご助言を受けて、旗振り応援を解禁。
	11月2日	・ 侍ジャパン強化試合において、3年ぶりの侍ジャパン応援団活動を発表。 ※11月5、6、9、10日の4試合で実施。

## 5. 応援団活動について

5-2 応援スタイルについて（2022年NPB新型コロナウイルス感染予防ガイドラインより抜粋）

**原則：応援歌合唱、鳴り物使用、大声、ハイタッチ等の接触禁止**

・ジェット風船応援	×（飛沫感染リスク）
・肩組み、飛び跳ね等集団での動きを伴う応援	×（接触感染リスク）
・指笛の応援	×（飛沫感染リスク）
・トランペット・ホイッスル等の鳴り物応援	×（飛沫感染リスク）
・メガホンを打ち鳴らしながらの声援（自然に歓声が大きくなる） ※但し、歓声を抑えて、メガホンを打ち鳴らすことは可	×（飛沫感染リスク）
・ビッグプレー、ファインプレー等での観客のハイタッチ	×（接触感染リスク）
・両手をメガホン代わりにした大声での声援、応援	×（飛沫感染リスク）
（応援可能例）	
・電子ホイッスル、拡声器の使用	
・プレーの度の拍手	
・拍手応援	
・応援団の太鼓リードによる拍手	
・応援タオルを横に広げて左右に振る、もしくは回す	
・フラッグ応援（新聞紙大の手旗を振る）	
・ビッグフラッグや大型の応援旗を振って応援	